

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-16	高等学校	福祉	コミュニケーション技術	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	福祉 705	コミュニケーション技術		

1. 編修の基本方針

教育基本法第二条の各号の目標を達成するため、それぞれ以下の点を基本方針とし本書を編修した。

教育基本法第二条	方針
<p>第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健全な身体を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に沿って、基礎・基本の内容を本文で扱い、さらに補足的な内容や解説、事例などを側注やかこみで扱うなど、幅広い内容を取り上げた。 ・コミュニケーションをとる際に、基本的人権が守られているかという視点で考えられるように、日本国憲法第11条を取り上げた。 ・高齢者の特性や障害について理解が深められるように丁寧に解説し、自分自身の心身の健康についても関心を持てるよう留意した。
<p>第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深められるよう「ジョハリの窓」を扱うと共に、自己覚知を取り上げ、いろいろな価値観を持つ他者とのかかわりにおいて、対人関係を円滑にし、自分の価値観の領域を広げられるようにした。 ・チームのコミュニケーションでは、介護福祉士は他の職種と連携が必要なことを、具体的な事例を示しながら理解できるようにした。 ・介護福祉士をめざす生徒や介護に興味をもっている生徒が、介護に対して魅力ある仕事だと思えるような記述になるよう配慮した。
<p>第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする高齢者や障害のある人を理解することにより、介護職としてどのように支援したらよいかを考えられるようにした。 ・ノーマライゼーションについて取り上げると共に、エンパワメントの視点からコミュニケーションをとれるように配慮した。

<p>第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害のある人の尊厳を守ることへの理解が深められるようにした。 ・高齢者が友人や配偶者との死別により喪失感や孤独感を感じることを学ぶことを通じて、生命や死について考え、生命を尊ぶ態度を養うことができるように配慮した。
<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が子どもだったころの遊びとして、お手玉・おはじき・ベーゴマを取り上げ、日本の伝統や文化に対する理解が深められるよう配慮した。 ・構音障害のある人とのコミュニケーション支援ツールの例として、外国語が書かれているコミュニケーションボードを掲載し、言語障害のある人だけでなく、外国の人とコミュニケーションをとることについても関心を持てるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>巻頭・巻末の カラーページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手話での簡単な会話をカラーイラストで示し、手話・指文字に興味を持ち、視覚的に知識が深められるようにした（第3号）。 ・盲導犬について紹介することで、盲導犬と歩いている人への接し方や支援方法が理解できるようにした（第3号）。 	<p>カラーページ 1-6</p>
<p>編とびら</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・編の冒頭に章ごとのねらいを示すことで、学習に対する興味・関心を喚起させ、自ら学ぶ姿勢を養えるようにした（第2号）。 ・章ごとに〇×クイズを入れることで、学習の導入として興味・関心を持てるようにした（第2号）。 	<p>p. 7, 45, 113</p>
<p>各節</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・節の冒頭にねらいを示すことで、学習に対する興味・関心を喚起させ、自ら学ぶ姿勢を養えるようにした（第2号）。 ・学習上で重要な用語についてはゴシック体を使うことによって強調し、丁寧に解説をすることで、幅広い知識と教養が身につけられるようにした（第1号）。 	<p>全般</p>
<p>考えてみよう やってみよう 調べてみよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容に関するテーマについて深く考えたり、グループで話しあったり、実際にやってみたりすることにより、自他を重んじ、協力して社会の形成に参画する態度を養うことができるようにした（第2・3号）。 	<p>p. 9, 12, 15, 16, 19-26, 29, 31-39, 43など</p>
<p>豆知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の理解を深める豆知識を掲載し、幅広い知識と教養を身につけることができるようにした（第1号）。 	<p>p. 8, 10, 11, 14, 20, 23, 30, 32, 36, 38, 40, 49, 52, 55, 56, 58, 59など</p>

コラム	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事例等を通して、幅広い知識と教養を身につけられるようにした（第1号）。 	p. 29, 53, 63, 83, 84, 95など
資料	<ul style="list-style-type: none"> 本文の理解を助ける資料を掲載し、幅広い知識と教養を身につけることができるようにした（第1号）。 	p. 17, 21, 28, 65, 85, 97, 114, 115, 125 など
編末問題	<ul style="list-style-type: none"> 本文で学んだ知識が身についたかどうかを確認する問題と、さらに理解が深められる問いを扱った（第1・2号）。 	p. 44, 112, 134

●編ごとの特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1編 福祉実践におけるコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解、他者理解、自己覚知、自己開示などを取り上げ、日常のコミュニケーションの場面においても人間関係を形成していくことができるようにした（第2号）。 コミュニケーションの技法について、「やってみよう」を通して実際に体験することで理解が深められるようにした（第1・2号）。 コミュニケーションの技法の図や「やってみよう」は、内容をイラストで表現することで理解を深めたりイメージしたりしやすくなるようにした（第1・2号）。 	p. 8-13 p. 31, 32, 33, 34, 36, 37, 39 など 全般
2編 サービス利用者や家族とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 利用者とのコミュニケーションの方法については、障害ごとに、それぞれの障害の特性や、コミュニケーションをとる際にポイントになることを分かりやすく説明した（第1・2号）。 コミュニケーション支援ツールの写真やイラストを掲載し、適切に支援ツールを用いて支援ができるように配慮した（第2号）。 障害のある人のコミュニケーションの事例についてコラムで取り上げ、実際のコミュニケーションのようすがイメージできるように配慮した（第1・2号）。 	全般 p. 70-71, 79, 82, 107 など p. 71, 83, 84, 95, 99, 103, 110, 111 など
3編 福祉実践におけるチームのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 記録の種類と記入例について、具体的な例を示して理解が深まるようにした（第1・2号）。 他の職種とのコミュニケーションを具体的に理解できるように、コラムでさまざまな職種から得られる情報の例を示した（第2・3号）。 	p. 118-121 p. 127

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条の各目標を達成するため、以下の点に留意し、本書を編修した。

学校教育法第五十一条	
一 義務教育として行われる普通教育の成果をさらに発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。	中学校における学習内容を踏まえ、丁寧な記述、平易な文章表現、豊富な図などを盛り込んで、コミュニケーションを実践的に学べるように配慮した。
二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。	介護福祉士や訪問介護員など、介護に関する資格をめざす生徒が専門科目としてコミュニケーション技術を学べるよう、イラストを用いて解説したり、実際の支援の事例を取り上げたりするなど、専門的な知識、技術及び技能を習得できるようにした。また、将来の介護職としての進路について具体的にイメージできるよう配慮した。さらに、介護職とともに支援にかかわる介護支援専門員（ケアマネジャー）や医師・看護師などの専門職を紹介し、将来の進路選択の参考になるようにした。
三 個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。	高齢者や障害のある人の支援に関わる社会的状況や課題について触れ、社会の構成員としてどのような課題解決の方向があるのか、考えられるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-16	高等学校	福祉	コミュニケーション技術	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	福祉 705	コミュニケーション技術		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

人間関係の構築や対人援助に関する知識と技術を身に付け、福祉実践に必要なコミュニケーションの資質・能力を育成できるよう以下の点に配慮した。

- (1) 各節に学習のねらいを示すことにより、学習の要点を理解しやすいようにした。
- (2) 図や写真など豊富な資料を掲載し、学習内容の理解を深められるよう工夫した。
- (3) 本文にはユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすくなるよう配慮した。また、外国人生徒が増えつつある現状と多様性への対応を考慮して、原則として小学校学習指導要領の学年別漢字配当表の漢字以外にはふりがなをつけて、多様な生徒が理解できるようにした。
- (4) 全編にわたって、かこみなどで具体的な事例を取り上げて、より具体的にコミュニケーションの場面がイメージしやすくなるように工夫した。

第1編 福祉実践におけるコミュニケーション

- (1) コミュニケーションの技法について、介護の場面だけでなく生徒が日常生活でも活用できるよう具体的な事例を用いて解説し、理解が深められるようにした。
- (2) 対人援助を行う際のコミュニケーションの技法を身につけられるよう、「やってみよう」で体験できるようにした。「やってみよう」は手順を示し、実践しやすいよう工夫した。
- (3) コミュニケーションの技法について、内容を表すイラストを用いて理解が深められるようにした。

第2編 サービス利用者や家族とのコミュニケーション

- (1) 高齢者やさまざまな障害のある人たちとのコミュニケーションの場면을イメージできるように、それぞれの障害の特徴などを理解してから、コミュニケーションの方法について学べるようにした。
- (2) 障害に応じたコミュニケーションが身につけられるよう、視覚障害、聴覚障害、言語障害、運動機能障害、知的障害、発達障害、高次脳機能障害、精神障害を取り上げた。
- (3) 障害についての知識は、図を用いて視覚的に理解できるようにした。
- (4) コミュニケーションを支援する機器については、写真やイラストを用いて理解を深め、関心を持てるようにした。
- (5) 認知症へのアプローチとして、パーソン・センタード・ケア、ユマニチュード、バリデーション、RO、回想法を取り上げた。

第3編 福祉実践におけるチームのコミュニケーション

- (1) 実際の介護の現場で用いられている記録の種類と内容が理解できるよう丁寧に解説し、記録の例を示した。
- (2) 記録の書き方について記入例を示すと共に、「やってみよう」「考えてみよう」で体験することで、記録の書き方を身につけられるように配慮した。
- (3) 近年、リモート会議をする機会が増えていることから、テレビ会議やWeb会議を取り上げた。

2. 対照表

	図書の構成・内容	学習指導要領の内容	箇所	配当時間
1編 福祉実践におけるコミュニケーション	1章 コミュニケーションの意義と役割	(1) ア	p. 8-17	22
	2章 コミュニケーションの基本技術	(1) イ	p. 18-43	
2編 サービス利用者や家族とのコミュニケーション	1章 サービス利用者や家族との関係づくり	(2) イ	p. 46-53	36
	2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション	(2) ア	p. 54-111	
3編 福祉実践におけるチームのコミュニケーション	1章 記録	(3) ア	p. 114-125	12
	2章 チームによる連携	(3) イ	p. 126-133	

計 70